

カトリック山手教会月報

やまて



編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地
☎ (045) 641-0735 <http://catholicyamate.org/>

第642号 2023年8月13日

鈴木真主任司祭 主日ミサ説教

2023年5月21日「主の昇天」A年

マタイ福音書 28章16-20節

「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」…マタイ福音書のしめくくりの言葉です。ここを読むたびに、本当にすごい言葉だなあ、と思います。「世の終わり」…それがいつ、どんな形で来るのかはわかりませんが、大抵の人は「自分が生きているうちは来ないだろう」と思っているのではないのでしょうか。まあ…それはどうかわかりませんが、仮にそうだとするならば、わたしたちがこの世を去ったあとも、イエスはずっと共にいてくださる、とされているわけです。やっぱり、これはすごい！いつも言うことですが、イエスは、いつでもどこでも、そして、いつまでも、わたしたちが死んだ後も、共にいてくださる。それこそが「キリストの復活」であり、旧新両聖書を貫く〈共にいてくださる神〉というメッセージに他なりません。

特にマタイ福音書は、福音の大きなテーマとしてそれを強調します。最初にイエスの誕生が予告される場面でイザヤ書を引用し、「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」とわざわざヘブライ語で記したあと、ギリシャ語で「この名は『神は我々と共におられる』という意味である（1章23節）と説明します。そして、最初に引用した28章20節で締めくくる。〈共にいてくださるキリストを通しての神のはたらき〉…これ

こそが「福音」つまり“よい知らせ”そのもの、とマタイは位置付けるわけです。

「主の昇天」…イエスが天に昇る、という出来事を具体的に描くのはルカだけですが、これもイエスがどこか遠くに行ってしまったということではなく、不思議な形で共にいてくださる…という体験であると感じます。そのしるしに、第1朗読で読まれた使徒言行録でも、このあとパウロを含めて使徒たちにイエスは、ちょいちょい語りかけられているんですね。聖書において「天」は神さまの領域です。そして、「地上」は人間の世界、それを結んでくださったのがイエスというお方、ということでしょう。

復活節のしめくくりに向かう中で、「共にいてくださるキリスト」を通しての神さまのはたらきを、一緒に感じたいと思います。



司式される鈴木師